

2007.12.28 日経

メタボ遺伝子、簡易検出

プロップジーン・早大などがキット・検査を1時間に短縮

バイオベンチャーのプロップジーン（東京都小金井市）と早稲田大学、自治医科大学などの研究チームはメタボリック症

候群に関連する遺伝子を一時間で検出できる検査キットを開発した。一日以上かかっていた検査時間が短くなり、病院です

ぐに検査結果がわかるようになる。来年度内に実用化する考え。メタボリック症候群に関連する遺伝子として学

会や論文で報告されて信頼性の高い六遺伝子の計七カ所の個人差をみる。遺伝子の特定個所が通常と異なると肥満や動脈疾患、糖尿病などを起こすと指摘されている。採取した血液や髪の毛などからDNA（デオキシリボ核酸）を抽出して

既存の装置で増幅し、専用のチップの穴に入れる。二十一～三十分置いてから洗浄すると、メタボリック症候群になりやすい遺伝子がある場合は光り、読み取り装置で簡単に識別できる。全部で約一時間で済む。自治医科大学で試験利

用を始めた。症例を集めてリスクとの関連を調べる。既存の検査は十万円以上するものが多いが、新チップは検査と合わせて数千円になる見込み。診断薬会社などと協力して実用化をめざす。プロップジーンは東京農工大学発のベンチャー企業。

メタボに関する

新聞報道記事

2007年12月28日

日経新聞朝刊